

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500014		
法人名	株式会社 マウントバード		
事業所名	グループホーム みどりの家 A-2F		
所在地	千葉県千葉市緑区誉田町2-11-105		
自己評価作成日	令和5年12月17日	評価結果市町村受理日	令和6年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	令和6年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分で出来る事を奪わずに「どうすれば出来るのか」を考えて入居者様が尊厳を持ち、日常生活を送れるように関わりながら、自立支援を実践出来るように努めています。
入居者様、職員が1階やB棟との行き来を増やして、それぞれが助け合いながら連携をとっています。又、“笑門来福”の理念を入居者様、ご家族、職員、皆で共感・共有出来るような支援を心がけ継続しています。
地域との交流がコロナ禍において滞っていましたが、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、外出や地域との交流に向けた準備をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みどりの家の理念「笑門来福」の通り、入居者様職員共に笑顔で過ごせるようにしています。又、法人の理念である「自立と愛」に一層の力を入れての支援が出来るよう実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスが5類へ移行されたので、地域の中で暮らす一員として生活出来るようにする為に準備をしています。町内会に入っているため、回覧板や募金の時などに交流をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ハローワークのジョブシティーカレッジで介護を学んでいる実習生の受入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での運営推進会議を再開しました。以前には無かった近隣の介護施設の施設長の参加もありました。ご家族から頂戴した意見を参考にした取り組みも行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主にホーム長が取組んでいる。今年は特に介護保険課(助成もあり)障害支援課、援護課、空室相談で包括支援センターへ相談等行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束廃止委員会を開催。全施設から担当者が集まり、委員会での内容をフロア会議で報告している。又研修を行い、身体拘束廃止に務めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として虐待防止委員会を3か月に1度開催。全施設から担当者が集まり、委員会での内容をフロア会議で報告している。又、研修を行い、虐待防止に務めている。各ユニットでそれぞれの目標を掲げて、虐待の目を摘む取り組みを行った。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年の5月、2階に成年後見人が付いている入居があり、定期的に来所もあり理解している。入居時に保佐人が制度について丁寧に説明してくれた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学や入居予定者の面談時、契約の際に管理者が分かり易く十分な説明を行い、不安な点、疑問点を解消して、お互いに齟齬の無いよう努め、納得して頂いた上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や、何かしらご家族に連絡する際には入居者様の様子を電話報告した時に意見要望も伺うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や2階職員のためのグループラインを活用し、意見提案を聞いて反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員と個別に話をする機会を設け、現状の把握や要望を傾聴し各々が向上心を持ち、やりがいを持ち働ける環境の整備に努めている。本部に提出する面談シートも活用して定期的に個別面談、ラインでの個別の相談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加可能な職員が、順番に本部の内部研修に参加出来るようにしている。役割や現状に合った研修には当該職員が研修を受けられるようにしている。又、資格取得も促しており、取得の際はシフトに配慮してスキルの向上を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部研修に参加する事で他施設の職員と交流している。又、フロア会議の際に他施設の施設長に参加してもらい、交流の機会を作っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学や面談で、入居に関して不安や要望等を伺い、本人のニーズに沿うように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や面談で、家族から必要なサービスについて伺ってから利用して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とするケアを家族、本人と話し合い、その方にサ高住が合えば見学をお勧めします。当ホームでできるケアや、状態により医療保険を使った認知症デイケアの利用も提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を巻き込みながら、掃除や洗濯や調理のお手伝いをして頂いて、共に暮らす者同士の関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に外部受診に行ってもらったり、季節に合った衣類を持って来るなど対応してもらい本人と家族の繋がりを協力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム内に入って頂いてフロアでの面会を再開しました。又、日頃の様子を法人のホームページに掲載したり、LINEを登録して頂いているご家族には写真や文章で状況を報告している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの自席は本人の要望や入居者様同士の相性を見て決めている。職員が間に入り、皆がコミュニケーションが取れるよう努めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居届けのサインを頂く時に、退居後も何かあれば連絡して下さい。とお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりや雑談の中から、本人の希望や意向を掴み、個々の要望に沿った暮らしが出来るように皆で検討し支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に本人や家族からこれまでの生活歴や趣味等好きな事を聞き、担当のケアマネがいればフェイスシートやサマリーを頂いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の介護記録や申し送り、日々の関わりで最新の情報の把握に努めている。行った家事等を簡単に記入出来る表を作成して、出来る事、能力を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議での職員間の話し合いや、家族やご本人の意向を取り入れながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や介護記録、申し送りノートを読んだり、日々の職員間の話し合いやフロア会議での意見から見えてきた変化や気づきに合わせて、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズの把握に努めている。医療保険でのデイケアの利用等に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の消防署立ち合いの元で、職員と参加可能な入居者様が参加して、避難訓練を行っている。前回の訓練では、職員が実際に119番通報をする訓練も行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が定期で往診に来て利用者様それぞれの状態を共有している。他に皮膚科や整形外科も往診が入っている。訪問歯科も往診に来ていて、要望や必要に応じて歯科利用を開始出来る体制を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	弊社所属の看護師が毎週来所。職員からの話や、連絡ノートで入居者様それぞれの状態を共有している。記録の電子化に伴い、ホーム外からでも常に記録が見られるようにした。又、往診時に立ち合いも行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご家族や病院と連絡を取り、状態の把握をしている。退院前のカンファレンスには必ず参加し受入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期になった場合の指針について家族に説明している。重度化した時にも、意向に沿った看取りケアができるよう聞き取りをしている。必要に応じて訪問看護の利用の提案もしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急通報の手順や連絡先をマニュアル化し、事務所内に掲示している。 法人内で、普通救命講習(外部委託)を開催。ホームからも参加して、会議での報告を通じて情報を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の消防署の立ち合いの元、防災訓練を行っている。又、発電機や備蓄品を拡充し災害対策を行って		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守り馴れ合いにならないように、ゆっくり解りやすく丁寧な言葉遣いや対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、入居者様の希望を伺っている。自己決定の際は解りやすく返事をしやすい尋ね方を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、起きられなければ朝食をずらしたり、その日の体調により入浴日を変更している。趣味の時間も取れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前から使用していた化粧品購入の支援、着たい服を選んで着て貰ったりしている。訪問理容の際には、本人の希望する髪形にってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る事に合わせて、マスク・手袋着用して野菜の皮むきや盛り付け等職員と一緒にしている。職員が同席しての食事は感染症対策の為行っていません。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事量や水分量を毎日記録し把握に努めている。塩分制限のある方もいるので塩分控えめにしたりキザミ等の形態を変えたりしている。水分量が少ない方にはこまめな摂取の促しや、飲みたい物を選んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で磨ける方には自分で磨いて頂いて、介助が必要な方には介助で磨いて頂いている。訪問歯科からの助言「口腔衛生管理に係る助言」も参考にして口腔ケアに努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	都度、排泄表に記入して一人ひとりの排尿・排便間隔を把握し、時間が空いている方にはトイレでの排泄を促している。下更衣の上げ下げや水を流すなど出来る方にはやってもらうよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないようにこまめな水分摂取の声掛け、散歩、レクでの体操参加を促している。必要に応じ医療職と相談して、排便を促す薬を飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入りたくない気分の時や、血圧がいつもより高いなど体調によってシャワー浴や清拭にしたり入浴日の変更をしている。季節により庭に生る柚子で柚子湯を楽しんで頂いたりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせて休息が取れるようしている。快眠できるように、室温や寝具、照明光度の調整を季節に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書をいつでも確認できるようにしている。薬の変更があった時には、申し送りノート等で変更が分かるようにしている。服薬については、個々に合わせて手に乗せたり介助で口に入れたりロミに混ぜて提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりたいお手伝いを(調理・掃除・洗濯物畳みなど)一緒に行い過ぎて頂いている。手伝った事が分かる表を使い、出来る事を共有している。また、新しく楽しめるものを見つけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	鯉のぼりや桜の花見など、ドライブに出かけて季節を感じ楽しんでもらっている。デイケアを利用している方には、デイケアへ通って頂いている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっていて、本人が希望する物を購入している。又、普段の会話で本人が必要とする物の把握に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にホームから電話をして会話して頂いています。手紙のやりとりはありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう、季節に合った掲示物を一緒に制作しフロアや入口に飾っている。室温は適温か、居室やフロアは暗くないかこまめに調整するようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のフロアでは相性を見て座席に配慮して適宜変更をして、入居様同士でのコミュニケーションが取れるようにしています。又、テレビを観るのが好きな方には集中してテレビを見られるようにもしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用していた家具や馴染みの寝具を持ってきて頂いたり、写真やカレンダーなど好きなものを飾り居心地よく過ごせるよう支援している。遺影や位牌を持ってきてる方もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名前、トイレや浴場の扉には、その場所が何であるのかが一目で分かるように絵で表示して、自立している方も1人で行けるようにしています。分からない方には理解できる声掛けで不安にならないように支援しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと